



北川 須美子さん
Kitagawa Sumiko
〔上早川二区〕

廣田 洋子さん
Hirota Youko
〔大町区〕

本町に肥後狂句の輪を広げるため、昨年9月に甲佐町文化協会に加入。先月号から、本紙「うたごよみ」コーナーで、肥後狂句の作品紹介を開始。

想像力を働かせ、心を詠むのが 肥後狂句の面白さ

「肥後狂句の魅力は、身近な題材を喜怒哀楽やユーモアなどを込めた限られた言葉でどのように表現するか考へること」と話すのは、北川須美子さんと廣田洋子さん。

と呼ばれる題を句の頭に置いて、その下に七・五または五・七の言葉をつけて創作する。「笠の下に作る『付け句』」に字余り、字足らずがあつてはだめ。付け句の12音で身近な題材をどう表現するか「推敲

（すいこう）を重ね、句を磨いていく。約40年のキャリアを持つ北川さんの句を「思いつきで書くのではなく、熟考を重ねた言葉は奥が深い」と廣田さんは絶賛。北川さんの句のとりことなり、半年ほど前から創作を始めた。そんな廣田さんを、北川さんは「とにかく熱心に句を作って来てくれる」と感心する。

面白い句を作ることは、「想像力」にあるという。「同じ笠の下にたった12音の付け句を作るものだから、似たような句や、なかには一字も違う句がない句ができることもある。そうならないためには、男性にも、少女にも、おばあさんにもなつて詠むといい」と、

さまざま人の視点で物事を見ることで意外性のある句ができる」と北川さん。さらには、「言葉を誇張して、インパクトのある句を作ること大切」と話す。「雪が冷たいとか、空が青いとか、当たり前前ことを詠んでも句にならない。風景を詠む俳句などと違って、心を詠むもの」と、その極意を語る。

「お金が掛からない庶民の文芸。多くの人と一緒に楽しみたい」と話す2人。「目の回る」と『田舎道』という笠で句を募集しているの、はがきに書いて気軽に送ってほしい」と、笑顔を輝かせた。

●応募先

〒861-4622
甲佐町大字上早川1648
北川 須美子 宛